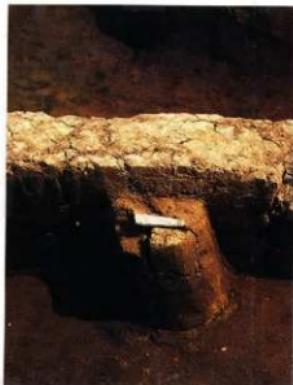


うえ はる  
上の原第1・第4遺跡  
はつかの  
白ヶ野第3遺跡

県営農地保全整備事業（時屋地区）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査概要報告書(2)



1996.3

宮崎県教育委員会

**表紙写真** 上の原第1遺跡出土石劍

## 序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しては深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本書は、宮崎市と清武町にまたがる時屋地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、本年度事業地内で実施した上の原第1遺跡・第4遺跡、白ヶ野第3遺跡の発掘調査報告書です。

調査の結果、縄文時代の草創期・早期の土器や、中期から後期にかけての竪穴・土坑、古墳時代前期の竪穴住居跡や祭祀遺構など、当地の歴史を語る上で重要な資料を得ることができました。特に縄文時代中期の竪穴内で検出された石組み炉やその近くから出土した石劍は、宮崎県内でも類例の少ないものです。

それらの概要をまとめた本書が学術資料として、あるいは学校教育や生涯教育の資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助になることを期待します。

最後になりましたが、調査にあたってご協力いただいた関係諸機関をはじめ、ご指導ご助言をいただいた先生方、ならびに時屋上地改良区など地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成8年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田 原 直 廣

## 凡　　例

1. 本書は、県営農地保全整備事業（時屋地区）に伴う上の原第1・第4遺跡、白ヶ野第3遺跡の発掘調査概要報告書である。

2. 調査組織は以下の通りである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教　育　長	田原　直廣
文　化　課　長	江崎　富治
課　長　補　佐	田中　雅文
主幹兼庶務係長	高山　恵元
埋蔵文化財第一係長	面高　哲郎
主幹兼埋蔵文化財 第二係長	岩永　哲夫
主事（調査担当）	吉本　正典
調査員（嘱託）	井田　篤

3. 本書で使用した上空からの写真的撮影は、株式会社スカイサーベイに委託した。

4. 本書の執筆・編集は吉本が行った。

## 目　　次

第Ⅰ章 はじめに .....	1
第Ⅱ章 調査の概要 .....	4
1. 遺跡の位置と環境 .....	4
2. 上の原第1遺跡の調査 .....	4
3. 上の原第4遺跡の調査 .....	7
4. 白ヶ原第3遺跡の調査 .....	7
第Ⅲ章 まとめにかえて .....	11

## 第Ⅰ章 はじめに

時屋地区の県営農地保全整備事業は平成元年度から平成8年度までの予定で約60haの面積を対象には場整備を行うもので、平成3年度から宮崎市教育委員会によって宮崎市側の3遺跡（椎屋形第1遺跡・第2遺跡・上の原遺跡）の記録保存のための発掘調査が実施されている。また平成6年度には行政区が宮崎市と清武町の2市町にまたがる上の原第2遺跡・第3遺跡の発掘調査が、宮崎県教育委員会によって実施されている。平成7年度の工事地域内の上の原第2遺跡・第3遺跡・白ヶ野第3遺跡も同じく宮崎市と清武町にまたがるため、その取り扱いについて関係機関と県教育委員会で協議を行った結果、県教育委員会が主体となって発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、平成7年4月24日から平成7年11月28日までの期間行われた。

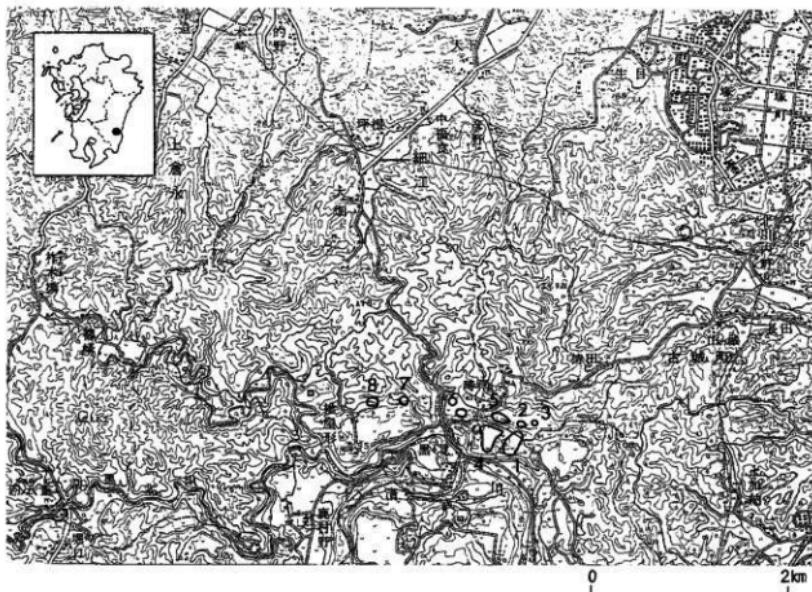


図1 遺跡の位置 (1/50000地形図『宮崎』より)



写真1 上の原第1遺跡  
調査区（上空より）



写真2 上の原第1・第4遺跡全景（上空より）



写真3 繩文時代  
堅穴・土坑群（上空より）



写真4 21号堅穴35号土坑ほか堅穴群（北東より）

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 1. 遺跡の位置と環境

時屋地区の諸遺跡は宮崎市大字細江字時雨柳迫と宮崎郡清武町大字船引字上の原・字白ヶ野にまたがる地域に所在する。遺跡は標高約95mのなだらかな起伏を有する台地上に立地する。北緯 $31^{\circ} 52' 40''$ 、東経 $131^{\circ} 22' 0''$ 付近に位置する。

今回の調査箇所は、昨年度同事業に伴い発掘調査を実施した上の原第2遺跡・第3遺跡の東側に隣接する位置にある。さらに東側では、東九州自動車道建設に伴う発掘調査がほぼ同時期に行われた。上の原第1遺跡B地区として報告予定である。

上の原第2遺跡の発掘調査では、縄文時代早期の集石遺構が45基、貝殻文円筒形土器、縄文時代後期の竪穴住居跡・十坑や指宿式・市来式といった在地系土器、中世末～近世の掘立柱建物跡6棟、墓壙約40基などの遺構群が、上の原第3遺跡では縄文時代早期の集石遺構が9基、古墳時代中期の竪穴住居跡10基などが検出されている<sup>1</sup>。

また、近辺ではその他にも、前述の椎屋形第1遺跡・第2遺跡や上の原遺跡<sup>2</sup>などで発掘調査が実施され重要な資料が多く得られている。

(註)

1. 宮崎県教育委員会 『上の原第2・第3遺跡』 1995
2. 1996年に宮崎市教育委員会により報告書刊行予定。

### 2. 上の原第1遺跡の調査

調査に際して、耕作土(1層)を機械力を使用して除去し、昨年度調査の上の原第2遺跡・第3遺跡と主軸の共通する10mグリッドを組んでいった。実掘面積は約48,000m<sup>2</sup>である。

基本層序も上の原第2遺跡・第3遺跡とはほぼ同一で、Ⅲ層がアカホヤ層(鬼界カルデラ起源の火山灰層)となる。VI層は、明黄褐色を呈する火山灰のブロック(「小林輕石」)の再堆積土層である。

以下、主要な遺構、出土遺物について触れていく。

#### 縄文時代草創期

遺跡の中心部から南側にかけての遺跡内の最高位部分のV層(オリーブ褐色上)中より、隆帯文土器や同時期に属すると考えられる無文の胴部片が少量出土している。

#### 縄文時代早期

IV層(黒褐色土)とV層の層界付近から前平式と石斧、石鎌、石匙などの石器が出土している。V層上で精査した結果、不整形のIV層土の落ち込みは見られたものの、明確に遺構と認定できるものは皆無であった。

#### 縄文時代中期～後期

竪穴(竪穴住居跡と、住居以外の機能が推定されるものの両者を含む)が29基や、貯蔵穴を含む多数の土坑が遺跡の南側～南西側で検出された。中期～後期の遺構は混在していると見られるが、現在、整理途



写真5 21号竪穴（北東より）



写真6 21号竪穴内石組み炉（北より）



写真7 繩文時代草創期・早期面の状況（東より）

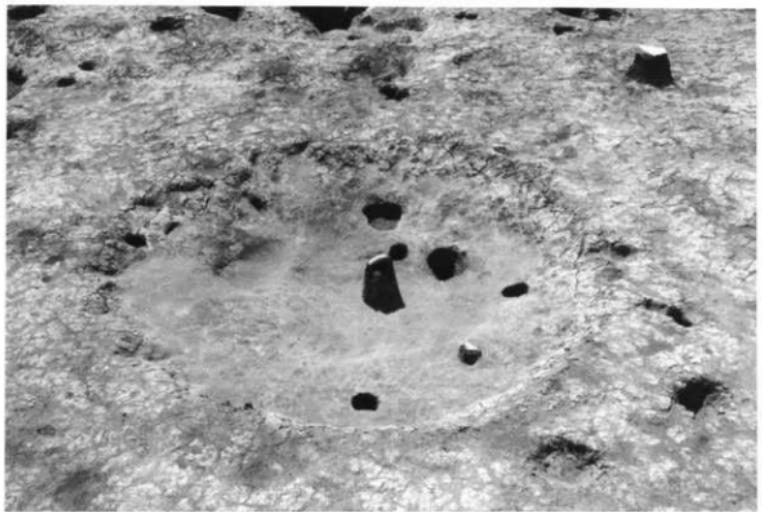


写真8 1号堅穴（東より）

上の段階であり、それぞれの時期の基數などの詳細は不明である。

竪穴の中には石組み炉を持つものがあり、これが中期の所産であれば、宮崎県内では初例となる。また35号土坑から、沈刻線を施した石劍の頭部の破片が出土している（巻頭写真）。縁泥片岩製。

#### 古墳時代前期

竪穴住居跡 6 基、土器窪り（祭祀に伴うものと考えられる）1 箇所が、遺跡の北縁部付近から検出された。略穴住居跡は、全て方形プランであり、2 本の主柱穴を有する。写真 9 に見るように、壁帶溝を巡らせるものもある。また、ほとんどの場合、中央部に偏平な大きな窪を置いている。どのような目的のものであるかは不明だが、注目すべき現象と言える。遺物の多くは覆土中からまとまりなく出土しているが、床面に良好な状態で遺存しているものもあり、昨年度調査の上の原第 3 遺跡の資料（今回の土器群よりもやや後出のものか）と並んで、該期の重要な資料となってくるであろう。

#### 土器「埋納」遺構

自然の營力によると考えられる落ち込みの中から、完形土器 8 点を含む多数の上器が出土している。もともと落ち込み自体はシラスの性質に起因する、埋没谷の頂部付近に形成された陥没孔であり、底付近には雨水等が流れ込んだ痕跡と見られる湿り気の多い黒色土が堆積していた。そのことから、当箇所は湿地（あるいは雨季のみ湿地状態となるところ）であったと推測され、そのようなところに土器を「埋納」した一種の祭祀遺構と考えられる。土器は古墳時代前期に属するもので、在地系の甕、壺、高杯などの他、搬入品と見られる布留式の甕が出土している。

### 3. 上の原第 4 遺跡の調査

基本層序は上の原第 1 遺跡とほぼ同じである。II 層とした黒褐色土層および土壤化アカホヤ層から古墳時代の七師器が出土している。特に、調査区のほぼ中央部にまとまって出土する箇所があった。また、III 層としたアカホヤ層の上面で造構の精査を行った結果、土坑 2 基と小穴数基を検出している。いずれも出土遺物は少ない。

IV 層としたアカホヤ層の下位の V 層、VI 層については、掘り下げはごく一部にとどまった。わずかに遺物が出土している。

### 4. 白ヶ野第 3 遺跡の調査

上の原第 1 遺跡の北東側に位置する白ヶ野遺跡は、浅い谷部で隔てられた白ヶ野第 2 遺跡と白ヶ野第 3 遺跡の 2 遺跡が工事地域に含まれていたが、白ヶ野第 2 遺跡の方は、法面上事でカットされるごくわずかな面積が対象であったため、掘り下げは行っていない。

白ヶ野第 3 遺跡では、時期不明の溝 1 本、埋没谷 1 箇所が検出されている。全体に出土遺物の量は少ない。埋没谷の覆土中より縄文時代早期の土器片が出土していることが目を引く程度である。



写真9 1002号竪穴住居跡（南東より）

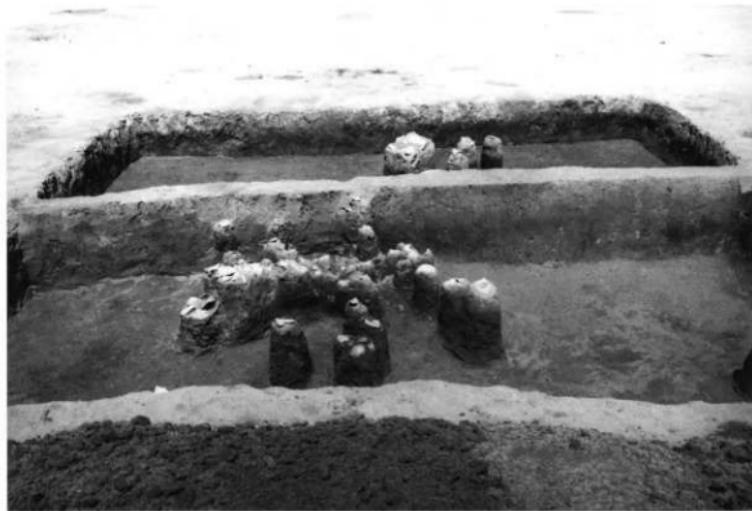


写真10 1005号竪穴住居跡 遺物出土状況（南より）



写真11 1005号竪穴住居跡（北より）



写真12 古墳時代土器「埋納」遺構（南西より）



写真13 土器「埋納」遺構 土器出土状況（東より）



写真14 上の原第4遺跡近景（北東より）

### 第Ⅲ章 まとめにかえて

今年度の発掘調査においても、縄文時代、古墳時代を中心とする各時期の遺構・遺物が確認されたが、それらの分布範囲は比較的狭い面積に限られており、分布範囲を離れたところ（上の原第1遺跡の中央部など）では、遺物の出土も稀なほど密度が低く、この点が昨年度調査の上の原第2遺跡・第3遺跡での在り方との違いと言える。以下、今回確認できた遺構・遺物およびその時代についての問題点を簡単に整理しておく。

縄文時代草創期・早期に関しては、それぞれの時期の遺物の出土層について前章で示したが、それについてはさらに詳しい遺物分布状況の分析を経て、確認していかねばならない。そしてその中で、草創期から早期に至る土器・石器の変化について、何らかの suggestion が得られれば、と考えている。

縄文時代中期～後期についても、各遺構の所属時期の確定という作業をまず行っていかねばならない。そこから、遺跡内（あるいは上の原第2遺跡も含めた）分布域の変遷、石組み炉、石劍といった当地域では希少な遺構・遺物の時期などが導き出せるであろう。縄文時代後期に属するものでは覆土中に石皿が見られる貯蔵穴など、「定住」を示す資料があり検討を要する。

古墳時代では、祭祀遺構と推定した土器の「埋納」箇所の検出が注目に値する。現段階では想像の域を脱し得ないが、「水」に係わる祀りの場であった可能性を考えておきたい。

# **上の原第1・第4遺跡 白ヶ野第3遺跡**

**県営農地保全整備事業（時屋地区）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査概要報告書（2）**

**1996年3月**

**編集・発行 宮崎県教育委員会  
印 刷 小柳印刷株式会社**